

若ノ嶋は続く九日目は大関を狙う関脇千代鈴との対戦。先場所の初顔では若ノ嶋が押し倒しで勝っている。千代鈴は八日目に横綱春ノ翔に敗れ、大関昇進のためには負けられない一番。

立合いに千代鈴が押し込むが、若ノ嶋がうまく左に回りながら正面土俵に寄り進む。千代鈴は俵に足が掛かりながら回り込んで左を差すが体勢が低く、そこを若ノ嶋が引き落とすと千代鈴が土俵を這った。若ノ嶋は連敗はせず1敗を守った。

大関佐賀ノ海はここまで6勝1敗と優勝圏内。優勝となれば連続優勝で横綱昇進の声が掛かる。取り組み前に「佐賀が優勝したら横綱だよ。」と朝日松理事長が錦風親方に語りかける。「佐賀は攻める相撲もあるけど守りで勝つ相撲も多くて、今ひとつ横綱相撲とは言い難いと思ってるんだよね。だから、今は勝っているけど守りの相撲で勝てなくなったら勝ち越したいというのだから、このまま大関で取らせたというのが偽らざるという事なんだよ。でも、もし連続優勝するようなら、横綱に推挙されればこんな名誉なことはなく、いろいろ考えたんだけど辞退というのには佐賀にも申し訳なく、快く受けようと思ってる。」と錦風親方が今の心境を語った。

その佐賀ノ海は八日目の相手は元大関白閃光。共に1敗同士の対戦。今場所の白閃光はかつての強さを取り戻したかのような相撲で絶好調。右からの投げと押しが大関に駆け上がるころの相撲を彷彿とさせる。軍配が返ると白閃光がすぐ右ののど輪で攻め立てる。

これには佐賀ノ海は残す腰がなく押し倒された。「よっしゃー!」と思わず大声を張り上げる。磯ノ海親方。これにすかさず鹿賀乃戸親方が「大声禁止!」とこれを制する。「そだね。」と言いながらも喜びを隠しきれない。磯ノ海親方だった。佐賀ノ海は2敗に後退。



佐賀海●(押し倒し)○白閃光

翌九日目は鬼ヶ嶽との対戦が組まれた。昨日は大歓声の中、若ノ嶋に勝った鬼ヶ嶽。初日から立つたずの8連勝で優勝争いの単独トップに立っている。「ここは横綱の借りを俺が返してやる!」と気合が入る佐賀ノ海。いくら元大関だといっても、横綱、大関が連敗するわけにはいかない。

注目の一番は佐賀ノ海が立ち合いのすぐさま伝家の宝刀の右のど輪で責めると、鬼ヶ嶽はなすすなく押し倒された。「よし!これです昨日のリベンジを果たしたぞ!」と錦風親方が安堵の表情を浮かべた。「鬼は昨日の若ノ嶋戦に全精力を傾けてた。鬼ヶ嶽が敗れて全勝が消えた。」



佐賀海○(押し倒し)●鬼ヶ嶽

白閃光の九日目は同じく1敗の鹿富士。鹿富士は八日目に超刃との対戦から、差し手争いの攻防から左を差す相撲をみせて勝っている。1敗同士の相撲は鹿富士が左を差す体勢になりながら、もう一歩足が出ずに白閃光が引き落として勝って1敗を守った。鹿富士は2敗に後退した。



鹿富士●(引き落し)○白閃光



春ノ翔○(押し倒し)●千代鈴

横綱春ノ翔は五日目から3連敗でここまで3勝4敗と黒星先行。先場所までの相撲が嘘のよう。これも新横綱のプレッシャーによるものなのかしら。しかし、八日目の千代鈴との一番では春ノ翔らしい力強い相撲で押し倒して勝った。

九日目は同門の魁電戦。魁電は八日目に大神楽に敗れて負け越しとなった。大関からの陥落が決まっ流れしまった。「魁電、休場するかな?」との噂も流れたが、そのまま出場することになり結びで対戦した。

春ノ翔は鋭い立合いから左を差すと無理し裕の相撲で魁電を寄り切った。春ノ翔は2連勝して5勝4敗と白星を先行させた。横綱として負け越すことはできず、少なくともあと一つ勝たなくてはならない。



魁電●(寄り切り)○春ノ翔

九日目を終えて全勝が消え、1敗で若ノ嶋、白閃光、鬼ヶ嶽の3力士が先頭に立ち、2敗で佐賀ノ海、太刀鳳、鹿富士の3力士が追う展開となった。優勝争いはこの6人に絞られる。太刀鳳以外の5人は全員が優勝経験者という実力者同士の優勝争いになった。

本来であれば、若ノ嶋は十日目に魁電、千秋楽に春ノ翔、佐賀ノ海は十日目に春ノ翔、千秋楽に魁電との対戦が組まれるはず。しかし、優勝争いを優先すれば割替えという事も考えられる。すべては割り担当である友砂親方の胸先三寸。優勝決定戦にもつれ込む可能性も大いにあり、十日目、千秋楽の相撲は間隙をぬって太刀鳳が優勝なんてことはない。最後に、紙相撲は取って見ないとわからない。秋楽が今から待ち遠しい。(錦風)



十両は2敗で3力士

十両も九日目までを行い、全勝でトップに立っていた琴乃王が連敗を喫して混戦の展開となってきた。1敗で追走していた暫も敗れて2敗で鳥海波、琴乃王、西神門の3人が並んだ。

「このまま琴乃王が優勝しちゃうのか!」と館内からも声援が飛び交う中、琴乃王が土俵に上がる。対戦相手はここまでの2敗の宇治家は連勝ストッパーに決まり手である。7連勝の引きと叩きでまともな勝負の電幕戦の押し出しのみ。



琴乃王●(寄り切り)○宇治家

注目の一番は立ち合から直ぐに左を差した宇治家が期待に応える相撲で寄り切りで下し、九日目の西神門に敗れて連敗となった。長い相撲になると琴乃王の術中になるため早い攻めが功を奏したようだ。琴乃王は久々の本場所での相撲が鈍ったのかこれまでの曲者振りを発揮することは出来なかった。



西神門○(寄り切り)●琴乃王

鳥海波が大方の予想に反し2敗を守った。今場所十両に陥落してこのままズルズルと番付を下げて行くのかと思われた。結果にあまり期待していなかった勝間田親方。逆にならぬ鳥海波の闘志に火を点けたのかもしれない。これで一場所での幕内返り咲きも見えてくるか。